



サーファペイント、沖縄県で初の施工事例



上：外壁塗装中の様子 下：下地処理後、塗装前の屋根部分



NanoPhos社製・防汚性遮熱断熱水性ナノ塗料「サーファペイント」の沖縄県での普及の皮切りとして、去る9月中旬に沖縄県名護市で、県内では初となるサンプル施工が行われました。モデルとなって頂いたのはブロック造りの築25年の住宅。数年前に1度他社製断熱塗料で塗り替えを行ったが、期待通りの効果が得られず、外壁・屋根部分の汚れと室内の猛烈な暑さに頭を悩ませていたそうです。今回使用した材料は、サーファペイント外壁用60ℓ、屋根用80ℓ。地元塗装会社により施工が行われました。

表面温度で約12度の違い!!

下地処理後、まず外壁部分の塗装が行われ、後日屋根部分を塗装。屋根部分2度塗り後数時間が経過したところで表面温度の計測を行いました。午後3時半、天気快晴、外気温32℃の条件下、無塗布部分が47.9℃まで上昇したのに対し、サーファペイント塗布部分は35.8℃に止まりました。(写真参照)



サーファペイント塗布部分 (2度塗り)



無塗布部分

以下、施主様のコメント

- 塗装前数日間の平均が、外気温29℃に対し、室内は32℃、室内は扇風機2台を稼働しても蒸し暑く、縁側で過ごす事が多かった。
- 9月17日(火)、18日(水)に屋根塗装を行ってからは室内の温度が平均27~28℃(4~5℃の差)まで下がり、一番暑い、12時~13時頃も快適に過ごせるようになり、食事の準備をするのがだいぶ楽になった。
- 9月26日(木)にすべての塗装が完了したが、この頃は外気温も下がり始めてきた為大きな差はないが、室内のほうが涼しく感じる。来年の夏に効果を存分に発揮してくれるだろうと、期待している。

沖縄の厳しい自然環境から建物を「^{まも}護る」

沖縄の住宅は戦後、台風が強かった米軍基地内の建物の影響を受け、鉄筋コンクリート造りが増えていきました。しかし、コンクリートは熱を吸収するため、沖縄の気候にあまり適していないという問題点もあります。熱を吸収しないようにするため、白い家が目立ちます。台風や潮風、強い日差しの影響をもろに受ける外壁や屋根部分は劣化も激しく、その対策として用いられる塗料も高性能な物が求められています。屋根の断熱性が弱いと、建物に熱が伝わりやすくなり、夏の冷房、冬の暖房に大量のエネルギーを消費します。サーファペイント(屋根用)は断熱性に優れた高品質エラストマーアクリル塗料で、成分である断熱性の高い超微小ナノ粒子が熱伝導を遮断、熱放射を反射、水の侵入をブロックするため、消費エネルギーを大幅に抑制できます。熱伝導率は従来型塗料の5分の1です。紫外線やアルカリ性に対する耐久性にも優れ、過酷な環境にも強く、長い耐用年数が特色です。さらにフッ素重合体(PVDF)構造により、塗装面はいつまでもきれいで汚れが付着しにくく、素地本来の美観が持続します。沖縄の厳しい自然環境から建物を「^{まも}護り」、お家の「長寿」を助けます。

沖縄県中部の住宅街。白い建物が目立つ



サーファペイントは、ナノテクノロジーが生み出した断熱性・遮熱性・汚れからまもる高性能塗料です。



サーファペイント

検索